

# 指定席

井 尻 直 彦 (准教授 国際経済論)

私が初めて経済学部の図書館を利用したのは本学に入学した直後でした。それまで公立図書館で受験勉強をしていたし、「大学＝図書館」というイメージがありましたので、自然と図書館に足が向きました。図書館に入ってまず驚いたのは、図書館なのにはほとんど図書が見当たらないことでした。それまで「開架」式図書館を利用したことがなく、図書館には膨大な図書がきちんと分類され所狭しと並んでいるものだと思っていました。また、通学時に電車の中で読む面白そうな文学作品を借りようと、館内を探してみてもほとんど見当たらない。それゆえ、はじめはこの図書館に違和感をおぼえました。そうこうするうちに、ここが通常の図書館ではないことに改めて気がつきました。そう、ここは「経済学部図書館」。つまり、経済学を学ぶ人のための図書館です。

さて、あまり良好とは言えない経済学部図書館との出会いでしたが、しばらくして印象が変わりました。それは段々と講義と講義の空き時間に図書館にいる時間が増えてきた頃です。これには、学生にとって他に居場所が少ないという経済学部固有の事情もありました。食堂が混むので早めにお昼ご飯を食べ、図書館に直行します。はじめの頃は、図書館の入り口から正面に見える2階席に座って本を読んでいた。でもしばらくして、その席から正面入口奥に見える勉強スペースを見つけました。やや小さめの入り口(?)を抜けて階段を上下して様子を窺うと、各階には勉強している先輩たちがいました。ある人は電卓を使用して資格試験の勉強しており、またある人は傍らに図書を積んで黙々とレポートを書いていた。意外に多くの方が熱心に勉強していると先輩たちに感心していました(今思えば、6000人を越える在校生にしては図書館にいる学生が少なかったのでは・・・)。

そして、館内をうろうろと探検しているうちに私の指定席が決まりました。階段を一番下まで下りていくと、そこには他の階とは違う雰囲気がありました。天井も高く、机は個人用でデスクライトもあります(私は手元が暗いと勉強する意欲が落ちてしまうのでライトは必須)。公立図書館での受験勉強時代とは比べものにならないほど高級な空間がそこにはありました。そこは、朝早く並んで席取りをしなくても座れる、休憩スペースもある、話し声もしない、とても静かで居心地のよい空間でした。このとき、経済学部に入學して良かったと感じました。

図書館に快適な空間は必要です。それだけで学生を勉強する気にさせてくれます。ちなみに、私はイギリスのノッティンガム大学に留学した時も、図書館に自分の指定席を見つけました。そこは開架式の大きな図書館で、大学院生は申請すれば一畳ほどの個室(キャレル)を図書館内に借りることができます。私は、このキャレルにノートPCを持ち込み、必要な図書を借り出し、試験勉強や論文作成のために一日のほとんどの時間をここで費やしました。ここは、自分の勉強部屋と呼べるほどにとっても快適な空間でした。

さて話は戻りますが、2年生になって専門ゼミに入室し、私の図書館の利用方法が変わりました。いつもどおり自分の指定席にいる時間もありましたが、ゼミ発表、ゼミ研究などグループで調べる機会が増え、4階のグループスタディスペースで過ごす時間も多くなりました。最上階のこのスペースはそれまで孤独だった図書館の時間を変えてくれました。ゼミの仲間とワイワイ、ガヤガヤともちろん周囲に気を使いながら一資料のページをめくっていました。ここでの時間はあまり生産性が高くなかったかもしれませんが、私にとって図書館の魅力がひとつ増えました。

このように経済学部図書館には個人的に良い思い出が残っています。いまでも当時を懐かしく思いながらこの図書館で時間を過ごしています。当時と違う魅力は、図書館の機能にHPが加わったことです。蔵書検索に加え研究に必要な様々なデータベースも利用できるこのHPは、私にとって研究のポータルサイトになっています。図書館の機能も時代とともに変化しています。これからも最先端のテクノロジーを採用して、利便性をさらに高めてもらいたいと思います。また、快適で居心地の良い空間も大切にしたいです。みなさんもぜひ経済学部図書館に自分の指定席をみつけてください。きっとみなさんの大学生活が充実します。